

2016 年度 入学 試験 問題

日本史 B

(試験時間 10:30~11:30 60分)

1. この冊子は、出願時に選択した科目の問題冊子です。科目名を確認のうえ、解答してください。
2. 解答用紙には、記述解答用紙とマーク解答用紙の2種類がありますので注意してください。
3. 解答は、必ず解答欄に記入およびマークしてください。解答欄以外への記入およびマークは無効となりますので注意してください。
4. 解答は、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用し、訂正する場合は、プラスチック製の消しゴムを使用してください。特に、マーク解答用紙には鉛筆のあとや消しくずを残さないでください。
5. 解答用紙を折り曲げたり、汚したりしないでください。また、マーク解答用紙を記述解答用紙の下敷きを使用しないでください。
6. 解答用紙には、必ず受験番号と氏名を記入およびマークしてください。
7. マーク解答用紙への受験番号の記入およびマークは、コンピュータ処理上非常に重要なので、誤記のないよう特に注意してください。

I 次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。問1～問10はマーク解答用紙にマークしなさい。問11は記述解答用紙に答えなさい。(30点)

筑紫国造磐井は新羅と結び、乱を起こしたが、討伐された。その後、九州北部に屯倉を設け、ヤマト政権は直轄地を拡大していった。そして白村江の戦いの後、対外的な危機を感じた朝廷は^①防衛・外交を強化した。

遣唐使は律令国家の政治・文化の発展に大きな貢献をしたが、菅原道真は遣唐使の派遣の中止を提案し、以後、遣唐使は派遣されなかった。その後、唐は滅び、北宋によって再統一されたが、正式な国交は開かれなかった。ただし、書籍や薬品などが輸入され、金や漆器などが輸出され、^③日宋貿易がさかんに行われた。

元は日本に対してしばしば朝貢を求めた。鎌倉時代において、^④日元貿易は博多を中継港としていた。明との国交を開いた第1回遣明船の副使は、^⑤博多商人の肥富であった。室町時代、博多は^⑥日明貿易の拠点として栄えた。

朝鮮半島では、高麗に代わり朝鮮が建国された。^⑦日朝貿易には室町幕府だけでなく守護・国人・商人が参加したが、宗氏による渡航証「文引」の所持が義務づけられると日朝貿易は宗氏の統制の下で実施された。^⑧琉球貿易においては、中継貿易が盛んに行われた。^⑨南蛮貿易はキリスト教宣教師の布教と一体で活動され、九州の大名の保護の下で行われた。

戦国時代において、博多は大友氏、毛利氏、龍造寺氏、島津氏の覇権争いの場所となり、島津氏と大友氏との争いによって博多は焼失した。その後、博多においては、商人による^⑩自治が行われ、神屋宗湛や島井宗室らの豪商が活躍した。

問1 下線部①の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 防人は5年交代で九州沿岸を守った。
- b 百濟からの亡命貴族の指導の下で、朝鮮式山城や水城が築かれた。
- c 新羅は、唐を牽制するため、日本へ使節を派遣し、日本も新羅へ使節を送った。

問2 下線部②の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 唐の衰退が遣唐使停止の理由のひとつである。
- b 遭難の危険を避けるため、遣唐使の航路は南路から北路へと変わった。
- c 唐から制度・文化・技術が日本へ多くもたらされた。日本からの留学生である阿倍仲麻呂や学問僧の行基が日本に帰国し、律令国家の発展に寄与した。

問3 下線部③の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 宋との正式な国交を開かなかったのは、東アジアでの動乱や朝貢関係を避けるためであった。
- b 平正盛は安芸国の音戸の瀬戸の開削を行って瀬戸内海の安全な航路を確保し、難波津を修築した。日宋貿易は平氏政権の重要な経済基盤となった。
- c 日宋貿易により、宋銭が大量に流通した。宋銭の大量の流通は、物資の商品化・換金化を促し、年貢の銭納を招いた。

問4 下線部④の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 足利義満は「日本国王源道義」あての元の返書と元の暦を受け取ったが、これは元への服属を認める象徴的行為であった。
- b 朝貢に応じなかった国などに元は侵略を行い、侵略は高麗・南宋・日本・チベット・ベトナムなどに及んだ。
- c 懐良親王は元から日本国王に任命され、朝貢を求められた。それと同時に元は懐良親王へ倭寇の取締りも求めた。

問5 下線部⑤の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 造営料確保を目的に博多商人至本を船主として天龍寺船が鎌倉幕府から元に派遣されたが、これは室町時代に派遣された建長寺船の先例となった。

- b 元は私貿易の管理を厳格に行ったため、日本側もこれに反発し、後期和寇の活動を始めた。
- c 韓国の新安沖で見つかった沈没船から銅銭や陶磁器が発見された。この船は東福寺造営料唐船として元に派遣され、寧波から日本へ戻る途中であった。

問6 下線部⑥の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 日本からの輸出品は生糸、高級織物であり、日本への輸入品は刀剣などの武器類、銅・硫黄の鉱産物であった。
- b 勘合貿易では滞在費や運搬費を明側が負担し、日本側の利益は大きかった。
- c 室町幕府の勘合貿易の管理権は寧波の乱以降、大友氏が独占した。大友氏は入手した勘合を博多商人に請け負わせた。

問7 下線部⑦の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 木綿が朝鮮から大量に輸入され、日本の衣生活に大きな変化をもたらした。
- b 朝鮮が博多を襲撃した「応永の外寇」により通交は一時中断した。
- c 高麗版大藏経が朝鮮からもたらされ、珍重された。

問8 下線部⑧の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 明と冊封関係を結んで琉球王国は繁栄した。
- b 日本から朝鮮への輸出品には、琉球を通じて手に入れた蘇木（染料）・香木（香料）などがあった。
- c 明の海禁政策により、琉球の中継貿易が活発になった。

問9 下線部⑨の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 平戸や豊後府内が南蛮貿易の港であった。

- b 大村純忠が長崎をイエズス会教会へ寄付し、奴隷貿易も行われていたため、豊臣秀吉はバテレン追放令を出し、南蛮貿易も取締りが強化された。
- c ポルトガル人やスペイン人は鉄砲や火薬を日本へもたらし、銀と交易した。

問10 下線部⑩の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 京都の町や町組は月行事を中心に運営され、町掟を定めた。
- b 堺は会合衆によって運営され、ガスパル＝ヴィレラの手簡には「ベニス市の如く執政官に依りて治めらる」と記されている。
- c 博多は年行司と呼ばれる豪商の合議によって市政が運営された。

問11 『宋書』倭国伝には、5人の倭王が宋に朝貢したことが記されている。その目的を2つとりあげ、50字以内（句読点を含む）で論述しなさい。

II 次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。問1は記述解答用紙に答えなさい。問2～問8はマーク解答用紙にマークしなさい。(30点)

幕府の財政基盤である直轄領^①は17世紀末には、旗本の [1] 地をあわせると約700万石となり、全国の総石高の約4分の1を占めた。幕府の軍事力の中心となったのは、將軍直属の家臣である旗本と御家人である。旗本の半数以上と御家人のほとんどが、 [1] 地をもたず、幕府から定期的^②に米を支給される [2] 取であった。

幕府の直轄領の年貢米の多くは、江戸浅草にある幕府の米蔵に納められ、幕府の経費や旗本・御家人の俸禄のまかないにあてられた。旗本・御家人は、支給される俸禄米の換金を [3] とよばれる商人に委託し、 [3] は、請け負った俸禄米の受取と売却にあたった。また、 [3] は、支給予定の俸禄米を担保にして、旗本・御家人に金銭を貸し付け、その経済生活を支配する一方、巨万の富を蓄積した。浅草蔵前あたりに百軒ほどが広大な店舗を構え、株仲間を結成し、江戸の代表的な豪商として成長した。

18世紀に入るところには、商品経済が発展するなかで、都市人口の増加が商品に対する需要を増大させたが、その需要に供給が追いつかず、諸物価が値上がりした。一方、新田開発などにより、米の供給は需要を上回るようになり、米価は他の諸物価に比べて低迷するようになった。諸物価の値上がりによる支出の増大に加え、必要な物資の購入をまかなっていた年貢米の価格の低迷により、幕府の財政は悪化し、幕府から支給される俸禄米を売って生計を立てていた旗本・御家人の生活も窮乏化^③した。

1716年に將軍となった徳川吉宗は、旗本・御家人に質素・儉約を命じ、窮迫していた幕府の財政再建^④に取り組んだ。新田開発を推進し、年貢増徴をはかるとともに、米価に大きな影響をもつ大坂の [4] 米市場を公認して米価の調整につとめた。武家の経済を安定させるには、米価を一定水準に保ちながら、他の諸物価とのバランスを維持することが必要であり、吉宗は、この米価の問題に熱心に取り組んだことから、 [5] とよばれた。

1787年、徳川 [6] が將軍に就任したころ、天明の打ちこわしが江戸でも発生し、幕府に強い衝撃を与えた。老中に就任した松平定信は、幕政の改革に着手し、

旗本・御家人に文武両道を奨励するとともに儉約令を発した。また、 からの借り入れに苦しむ旗本・御家人を救うために、棄捐令を出した。

学問を重視した定信は、 という試験制度をつくり、朱子学の振興をはかった。この制度の及第者には、町奉行遠山景元の父である旗本の遠山景晋や、「世わりに春の野に出て若菜つむ わが衣手の雪も恥かし」という狂歌の作者として知られる御家人の などがいる。定信は厳格に改革を進めたが、 らとの関係を悪化させ、1793年に老中の職を退くことになった。

1841年、長期にわたり実権を握っていた が死去すると、12代将軍家慶のもと、老中の水野忠邦が新たに幕政の改革に乗り出した。忠邦は享保・寛政の改革にならって、旗本・御家人に質素・儉約を命ずるとともに、困窮する旗本・御家人の救済をはかった。1843年には上知令を出し、大名や旗本の 地を他の土地と交換して、幕府の直轄領にすることを企てた。しかしこの企ては成功せず、忠邦は改革の開始から2年あまりで失脚することになり、忠邦による天保の改革は、その早すぎる失敗により、かえって幕府の弱体化を明白な形で示すものとなった。

問1 文中の空欄 ～ に入るもっとも適切な語・人名を漢字で答えなさい。

問2 下線部①の幕府の直轄領を幕領（天領）という。17世紀末における幕領、尾張藩（親藩）、彦根藩（譜代）、加賀藩（外様）の石高を大きい順に並べた場合、3番目に来るものを選び、その記号をマークしなさい。

- a 幕領 b 尾張藩 c 彦根藩 d 加賀藩

問3 下線部②の旗本・御家人に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 旗本・御家人は将軍の指揮のもと、江戸の防衛にあたる軍務を負っており、防衛の拠点である江戸に総員が居住した。
- b 旗本は石高1万石以上、御家人は1万石未満の幕臣であり、旗本・御家人の両者を合わせて直参とよんだ。

- c 将軍にお目見え（謁見）を許される身分である旗本は、大目付が監察し、お目見えの許されない御家人は、目付が監察した。

問4 下線部③の旗本・御家人の窮乏化に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 生活に困窮する旗本の救済のため、享保年間には足高の制が設けられた。
b 困窮する御家人のなかには、生計のために内職をする者も多かった。
c 御家人のなかには、御家人の地位を裕福な町人に売る者も出てきた。

問5 下線部④の吉宗による幕府の財政再建に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 財政の不足を補うため、大名から石高1万石につき100石を上納させる上げ米を実施し、代わりに参勤交代の在府を1年、在国を2年とした。
b 幕府の直轄領の年貢高は、吉宗の治世のころ、江戸時代を通じて最高水準に達し、幕府の財政再建は一定の成功をおさめた。
c 享保の飢饉により米価が急騰し、江戸で米問屋に対する打ちこわしが発生するなど、米価の安定には困難がともなった。

問6 下線部⑤に関連する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 棄捐令においては、旗本・御家人が抱える借金の帳消しも行われた。
b 貸付を行った商人と旗本・御家人の和談を禁じる相対済し令も出された。
c 棄捐令によって、かえって旗本・御家人は融資を受けることが難しくなってしまった。

問7 下線部⑥に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- bについては解答不要。aとcのみ答えなさい。
bのマーク解答欄にはマークしないこと。
a 株仲間は享保の改革で公認されたが、忠邦は株仲間の解散を命じ、以後、この制度が復活することはなかった。

- b 寛政の改革では、困窮する旗本・御家人を救済するために棄捐令が出されたが、忠邦の改革でも、棄捐令が出された。
- c 農村の再建のため、享保および寛政の改革では、旧里帰農令が出されたが、忠邦の改革でも、人返しの法が出された。

問 8 下線部⑦の上知令に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 上知令により、年貢率の低い幕府直轄領を、全国の年貢率の高い土地と交換して、年貢を増収させ、幕府の財政を安定させようとした。
- b アロー戦争における清国の敗北に強い危機感をいだき、対外的な防備を強化するため、要地を幕府直轄領で固めて防備を強化しようとした。
- c 有利な代替地を提供されたため、大名や旗本の多くは交換に応じたが、大名や旗本に貸し付けていた商人が、貸金の放棄を恐れて反対した。

Ⅲ 次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。問1～問3は記述解答用紙に答えなさい。問4～問8はマーク解答用紙にマークしなさい。(20点)

日清戦争前後の産業革命期に入ると、待遇改善や賃金引上げを要求する工場労働者のストライキが始まった。A ^①の労働運動に影響を受けた高野房太郎・1 ^②らは、1897年に労働組合期成会を結成し、その指導によって鉄工組合や日本鉄道矯正会などの労働組合が結成された。労働運動の展開のなかで、1らは、1901年に最初の社会主義政党である社会民主党を結成したが、前年に制定された治安警察法によってただちに解散を命じられた。

政府は、1900年に治安警察法を制定して、労働者の団結権・争議権を否認し、厳しく労働運動を取り締まった。その反面で、労資対立を緩和しようとする社会政策的立場から、1911年に労働者保護のために工場法を制定した。

1912年に 2 ^③により、労資協調主義に立つ穏健な労働者の修養団体として友愛会が結成された。友愛会は、労働争議の進展にともなって、1919年、大日本労働総同盟友愛会と改称した。その後も組織を強化し、1921年、日本労働総同盟と改めて、階級闘争主義を掲げる日本最大の全国的労働組合に発展した。

1937年、日中戦争が全面化すると、第1次 3 内閣は国民を戦時体制に協力させるため、国民精神総動員運動を始めた。1938年には国家総動員法を制定し、政府は戦時に際して議会の承認がなくても、Bによって人的・物的資源の統制・運用ができるようにした。

このころ、日本労働総同盟は、戦争協力の姿勢を強くうちだした。1936年、日本労働総同盟などを統一した全日本労働総同盟（全総）が組織され、1937年、ストライキ絶滅を宣言した。戦争協力が国民全体にわたって求められるようになると、労働者の画一的な支配をめざす産業報国運動がすすめられた。職場では労働組合に代わって産業報国会が組織され、資本家団体や労働団体幹部の全国組織として、1940年に「労資一体・産業報国」をスローガンとする大日本産業報国会がつくられた。のちには大日本産業報国会は大政翼賛会の傘下におさめられることになる。

1945年、ポツダム宣言を受諾した日本は連合国に占領されることとなった。連合国軍最高司令官総司令部（GHQ）の労働政策は労働基本権の確立と労働組合の結成

支援にむけられた。まず、1945年には労働組合法が制定され、労働者の団結権・団体交渉権・争議権が保障された。さらに1946年に労働委員会による調停などを定めた労働関係調整法、1947年には労働基準法が制定され、労働省が設置された。

⑤

問1 文中の空欄 に入るもっとも適切な国名を答えなさい。

問2 文中の空欄 ~ に入るもっとも適切な氏名を漢字で答えなさい。

問3 文中の空欄 に入るもっとも適切な語を漢字で答えなさい。

問4 下線部①に関して、産業革命期の労働者がおかれた状態をしるした著作・刊行物についての説明として、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 山本茂実は『あゝ野麦峠』をあらわし、過酷な寄宿舍生活で結核にむしばまれ、命を落とす製糸女工の実態をあきらかにした。
- b 雑誌『日本人』は高島炭坑における鉱夫虐待をとりあげ、鉱山労働者の劣悪な労働条件をあきらかにした。
- c 横山源之助は『女工哀史』をあらわし、低賃金で長時間労働を強いられ、非衛生的な寄宿舍で生活する繊維産業女工の労働実態をあきらかにした。

問5 下線部②に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 甲府の雨宮製糸で日本最初の工場ストライキが起きた。
- b 片山哲内閣打倒をめざす二・一ゼネラル・ストライキは、GHQの指令で中止された。
- c 芦田均内閣は政令201号を公布し、公務員のストライキ権をうばった。

問6 下線部③に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 工場法は12才未満の就業禁止、女性・年少者の深夜就業の禁止、12時間労働制を規定していた。
- b 工場法は政府の強い後押しにより制定の翌年に施行された。
- c 工場法制定の背景には、労働者家庭の生活状態の悪化は兵士の資質を低下させ、ひいては日本の軍事力をそこなう、という危機感が存在した。

問7 下線部④に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a ドイツにならった強力な政治指導体制をつくろうとする新体制運動が、大政翼賛会として結実した。
- b 大政翼賛会の組織は、総理大臣を総裁、道府県知事を支部長とした。
- c 大政翼賛会は政党組織ではなく、国策に全国民が協力するようはたらきかける上意下達機関と位置づけられた。

問8 下線部⑤に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 労働基準法は就業最低年齢14才を定めた。
- b 労働基準法は女性・年少労働者の深夜就業禁止を定めた。
- c 労働基準法は8時間労働制を定めた。

IV 次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。問1、問2、問4、問6、問7は記述解答用紙に答えなさい。問3、問5はマーク解答用紙にマークしなさい。(20点)

1950年6月、北朝鮮軍が北緯38度線を突破して韓国内に侵入し、朝鮮戦争が始まった。朝鮮戦争に出動したアメリカ軍は、日本で武器・車両の修理や弾薬の調達を行い、これをきっかけに、繊維・金属を中心とした特需景気が起こり、日本経済は好況に転じた。^①

1953年に朝鮮戦争が休戦すると、日本経済は不況に陥ったが、日本が防衛力を増強する代わりにアメリカから経済・軍事援助を受けることを内容とする 協定をアメリカと結んだことなどにより、1955～57年ころに、 景気と呼ばれる好景気を迎えた。このころから、日本経済は、年率10パーセント前後の高度成長を続けていき、1968年には、日本の国民総生産(GNP)は、資本主義諸国の中でアメリカに次ぐ第2位の規模にまでなった。

その間、1956年の経済白書には、日本経済は戦後復興の段階を終えて新たな経済発展の段階にはいったという趣旨で「もはや戦後ではない」と記され、1958～61年ころには 景気、1963～64年ころには 景気、1966～70年ころには 景気が出現し、急速な経済成長が続いた。

こうした経済成長の要因は、民間企業による積極的な設備投資や技術革新などに求められる。また、1960年に成立した 内閣が打ち出した所得倍増計画も、経済成長を支える政策であった。対外的には開放経済体制に向かい、1963年に、日本は に移行し、翌年には に移行するとともに経済開発協力機構(OECD)に加盟した。産業構造の面では第二次・第三次産業の比重が高まり、中東からの安価な原油の安定的な供給を背景に、エネルギー革命が進んだ。

他方で、第一次産業の比重は低下し、農村では人口の流出が進み、兼業農家が増加していった。1961年に農業基本法が制定されたが、過疎化は進行していった。また、全国各地で公害問題が発生し、 内閣は、1967年に公害対策基本法を制定、^②1971年に環境庁を設置した。人口が集中する都市圏を中心に、交通事故も急増していった。

1971年8月のドル防衛策の発表、12月のスミソニアン体制を経て、1973年には変

動為替相場制に移行したため、円安レートに支えられて輸出を伸ばしていた日本企業は打撃を受けた。さらに、1973年10月、第4次中東戦争が勃発すると、アラブ産油国は原油価格を大幅に引き上げ、中東からの石油に依存してきた日本は、第1次石油危機に見舞われた。原油価格の高騰と、首相が構想した「日本列島改造論」に基づく公共投資の拡大による地価暴騰が重なり、「狂乱物価」と呼ばれる激しいインフレが発生した。不況とインフレが併存する状況の中、1974年には、経済成長率が戦後始めてマイナスとなり、高度成長の時代は終焉を迎えた。

問1 文中の空欄 に入るもっとも適切な語を答えなさい。

問2 文中の空欄 には、国際収支を理由に輸入制限をすることができない国を指す語が入る。また、文中の空欄 には、国際収支を理由に為替管理を行うことができない国を指す語が入る。それぞれに入るもっとも適切な語を答えなさい。

問3 文中の空欄 ～ に入る語の組み合わせとして正しいものを1つ選び、その記号をマークしなさい。

- | | | | | |
|---|----------|----------|------------|----------|
| a | A = いざなぎ | B = 神武 | C = オリンピック | D = 岩戸 |
| b | A = 神武 | B = 岩戸 | C = オリンピック | D = いざなぎ |
| c | A = 岩戸 | B = いざなぎ | C = オリンピック | D = 神武 |
| d | A = いざなぎ | B = 岩戸 | C = オリンピック | D = 神武 |
| e | A = 神武 | B = いざなぎ | C = オリンピック | D = 岩戸 |
| f | A = 岩戸 | B = 神武 | C = オリンピック | D = いざなぎ |

問4 文中の空欄 ～ に入る適切な氏名を漢字で答えなさい。

問5 下線部①に関して、その直前の時期に日本に不況をもたらしていた原因の説明として、もっとも適切なものを1つ選び、その記号をマークしなさい。

- a マーシャル・プランが発表された。

- b 経済安定九原則の実施がはかられた。
- c 金融緊急措置令がだされた。

問6 下線部②に関して、公害対策基本法が1993年に廃止されるまでに公害として規定された7つのうち、2つを漢字で答えなさい。

問7 下線部③の原油価格の引き上げの影響は日本に及んだだけでなく、世界的な不況を引き起こす一因となったが、これに対処するために、1975年から毎年、日本を含めた西側諸国により開催されるようになった会議の名称を漢字で答えなさい。

